第 64 回温泉保護・管理研修会開催報告

第 64 回温泉保護・管理研修会を 2025 年 10 月 28 日（火）～29 日（水）、北とぴあ（東京都北区）つつじホールにて開催致しました。

研修会の内容は、温泉行政、温泉医学、温泉衛生学、温泉資源学、温泉化学、温泉観光学、温泉地学、温泉工学、温泉文化といった多岐にわたる分野をテーマに講演を行いました。会場の参加者は、テキストを手に熱心に受講し、質疑応答では活発な意見交換が行われました（写真 1～3）。また、研修会では、温泉関係業者による展示会も開催し、流体工業株式会社、富士化工株式会社、NPO 入浴施設衛生管理推進協議会と 3 団体より出展いただきました。展示見学の時間には、参加者が温泉地で実際に稼働している機材や部材の説明を受けたり、最新技術の情報収集を行ったり、日頃の疑問を専門家に直接質問したりと、非常に充実した時間となりました（写真 4～5）。

写真 1　会場の様子（1）

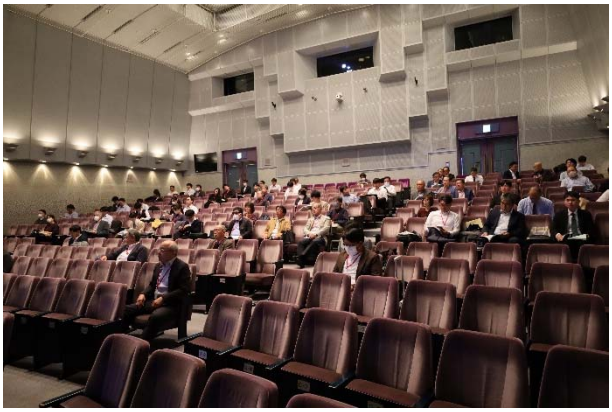

写真 2　会場の様子（2）

写真 3　会場の様子（3）

写真 4　展示会の様子（1）

写真 5　展示会の様子（2）

写真 6　展示会の様子（3）

今年の研修会は前回に比べて参加者が増加し、はじめてご参加いただける方もいました。研修会の輪を今後も広げていきたいと考えております。

温泉地にとって、今も昔も変わらないのは「温泉があってこその温泉地」であるということです。温泉は生き物のように日々変動しながら湧出しており、日常的な管理によってこそ、持続的な利用が可能となります。各々の温泉地における特徴を熟知した管理技術は、経験と実績の賜物ですが、それらの貴重な知識や技術を継承する人材の不足が課題となっています。温泉モニタリングの重要性は各所で取り上げられ、モニタリング方法も多種多様になってきています。まずは、「自分たちでできること」から始め、地域全体で協力しながら、それぞれの温泉地に適した方法を検討・導入することが、より効果的な温泉管理へとつながるのではないでしょうか。

今年は、インバウンドの需要が増加し観光客も増加、各地に賑わいが戻るといった報道もありますが、その一方で、地球規模の異常気象や天候不順が深刻化し、自然災害の影響も大きくなっています。気象の影響は、山の生態系にも影響し野生動物による被害報道が温泉地を含めた全国各地でみられます。これら様々な問題が温泉業界の新たな課題として浮かび上がっています。

本研修会が「自分たちの温泉地でも何か温泉に関する取組みを始めてみよう」というきっかけとなれば幸いです。今後も、皆様のお役に立てる研修会を目指して尽力してまいります。ご参加いただいた皆様には、あらためて御礼申し上げます。

来年の第 65 回温泉保護・管理研修会は、2026 年 10 月 28 日（水）～29 日（木）、北とぴあ（東京都北区）つつじホールにて予定しています。今回参加された皆様はもちろんですが、周りの関係者皆様お誘い合わせの上、ご参加を心よりお待ちしています。

また、第 64 回の研修会の内容はテキストでもご覧になれます。過去の研修会テキストについてもストックの限りではございますが販売しています。詳細は事務局までお問い合わせください。よろしくお願い申し上げます。

（第 2 部主任　高橋孝行）